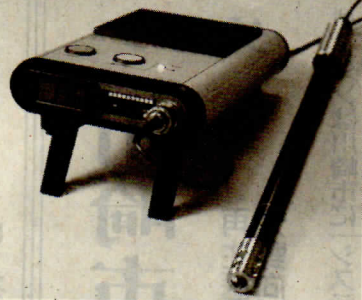


超音波音圧 見える化

センサープロローブ発売

ブルー・スターR&D



【相模原】ブルー・スターR&D(相模原市中央区、柴野美雪社)は、超音波音圧計と、音圧を測定するセンサープロローブ(写真)を開発、発売した。超音波槽の液中に発生する音圧を、見える化できる。価格は29万3500円(消費税抜き)。初年度30

台の販売を目指す。

同社は超音波によるバリ取り装置や洗浄装置を開発するメーカー。液中に超音波が振動することで発生する「キャビティ(真空核群)」と呼ばれる真空の微細な泡の作用により、バリを取り除く。音圧変化とキャビティ発生は比例関係。バリ取り機に不具合があると不良品や事故につながるため、超音波の性能・管理を確認したいというニーズに対応し超音波音圧計を開発した。

同機はプロローブを液中に入れることで音圧の強弱を測定する。音圧はパワーメーターで表示し「LOW」から「STRONG」までの3段階。音圧レベル

は同社が独自に定めた0・00〜35・0までの数値で表す。測定周波数は10キログル〜60キログル。単3電池4本で稼働し、持ち運びが可能。柴野佳英会長は「超音波がきちんと出ているか、見える化する。性能管理やデータの把握ができる」と話している。